

2021 年頭所感

一般社団法人日本アルミニウム協会

会長 岡本 一郎

(日本軽金属ホールディングス株式会社 代表取締役社長)

新年あけましておめでとうございます。年頭のご挨拶を申し上げます。

昨年は、新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、国内の産業界は大きな影響を受けました。アルミニウム業界も例外でなく、アルミ圧延品出荷量は、自動車各社の生産ライン停止や建設現場の工事休止などで4月から影響が出始め、緊急事態宣言発令後の5月の圧延品出荷量は前年同月比▲23.5%と大きく落ち込みました。しかしながら、5月を底にマイナス幅は縮小し、10月は▲1.5%まで回復、自動車材は7ヶ月ぶりにプラスになるなど明るい兆しも見えてきました。

2021 年はコロナが終息に向かい、需要が増加することを期待しております。幸い、アルミニウムが持つ環境性能には、自動車材を始めとしてフォローの風が吹いています。昨年10月、菅総理大臣は、2050年までに温室効果ガスの排出を全体としてゼロにする、すなわち2050年カーボンニュートラル、脱炭素社会の実現を目指すことを表明されました。それを受けて経済産業省では2030年代半ばに国内で販売される全ての新車をハイブリッド自動車、電気自動車などの電動車にする目標を設ける検討を進めています。電動車の航続距離を伸ばすために車体の軽量化が求められており、アルミニウムの使用拡大が見込まれます。また、アルミニウムの強度、成形性、接合性等の課題が技術革新によって更に改善されることに伴い、アルミニウムの自動車への適用領域は拡大していくものと期待しております。リチウムイオン電池向けアルミニウム箔の需要は、昨年は前年比増を維持し好調に推移しましたが、電動車の普及拡大に伴い、需要の増加が継続して見込まれます。

半導体製造装置向けも需要の増加が期待される分野です。5G、IoT、AIの普及拡大などを背景とした半導体の需要の拡大は確実であり、それに伴い、装置向け需要の増加が見込まれます。

海外に目を向けますと、昨年 11 月に RCEP（東アジア地域包括的経済連携協定）が締結され、これまで経済連携協定がなかった中国、韓国と協定が締結されることになり、両国のアルミ製品輸出入に関するほとんどの関税が 10 年または 15 年で撤廃となります。プラス、マイナス両面の影響があるかと思いますが、アルミニウム業界はこれまでも環境の変化に対し、商品構成などを変化させながら対応してきました。この関税率の撤廃についても、マイナス面をうまく乗り越え、プラス面を積極的に取り込んで、より強い産業構造となることが可能と考えます。

こうした状況下、本年の協会事業としては、昨年 9 月に策定した「アルミニウム VISION2050」に掲げた構想を実現に移していく最初の年という意味で、ビジョン実現に向けた具体的な取り組みに注力してまいります。アルミニウムのリサイクル（循環）の高度化に関しては、去る 12 月に「アルミ循環委員会」を設置し活動を開始しました。「自動車」、「アルミ缶」などの個別需要分野別にアルミニウムの循環の仕組みを精力的に検討してまいります。展伸材におけるアルミニウムの循環率を高めていく上で鍵を握る不純物に強い溶解鋳造・圧延技術については、NEDO の制度を活用して先導研究を進めてきています。順調にいけば 2021 年度から本格プロジェクトとして研究開発に着手することとなっています。

協会事業の 3 本柱であります「新規需要の開拓」「広報活動の強化」「人材育成の強化」にも引き続き注力致します。「新規需要の開拓」については、昨年「技術戦略ロードマップ」を改訂してアルミニウムの新規需要を構想し、業界内外で共有できる技術革新の工程表を整理しました。また、「アルミニウム VISION2050」では 2050 年における需要量という数値（602 万トン）として、アルミニウムの新規需要の見通しを策定しております。

「広報活動の強化」については、昨年、「アルミニウム VISION2050」の策定を好機と捉え、ビジョンのコンセプトを取り入れたポスターを東京 9 駅、大阪 5 駅に掲出しました。

ホームページやメルマガによる情報発信はこれまでも取り組んできましたが、2021 年においては、ツイッター、フェイスブックなどソーシャルメディアを通じた情報発信を積極的に活用していく所存です。

「人材育成の強化」については、昨年はコロナの影響で「中核人材育成講座」を中止とせざるを得ませんでした。講座の開催を求める声が多く、2021年は対面での開催が困難な場合はWebでの開催を検討したいと考えております。また、大学への研究助成の継続等を通じ、業界の将来を担う人材の発掘と育成を図ってまいります。

これら以外にも、「製造業安全対策官民協議会」を通じた産業安全への取組み、大学との産学連携、標準化事業などについて、業界内の意思疎通を図りながら取り組んでまいります。

アルミニウムは、軽量性、耐食性、加工性、伝導性という特性に加え、優れたリサイクル性を有することから、まさに時代が求める金属と考えます。こうしたアルミニウムに潜む特性や長所を、具体的な形として世の中に提供することで、アルミニウム産業が担っていく使命を果たしたいと考えております。

全世界で新型コロナウイルス感染拡大が続いている中、今後の動向については不透明と言わざるを得ません。一日も早いコロナの終息を切に願うとともに、日本のアルミ産業の益々の発展を祈念いたしまして、年頭の挨拶とさせていただきます。

以 上